

- 1 題材名 曲想の変化を楽しもう（4時間）
 教材名 表現「思い出のメロディー」
 鑑賞「ハンガリー舞曲 第5番」（作曲者 ブラームス 編曲 シュメリング）

2 題材について

《学習指導要領との関わり》

A 表現	(1) ア、イ、ウ (イ)
B 鑑賞	(1) ア、イ
[共通事項]	(1) ア 音色、リズム、速度、旋律、強弱 ・思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:速度、強弱

(1) 題材観

本題材では、音楽を形づくっている要素の一つである速度と強弱に着目し、曲想及びその変化が感じられる根拠を考えながら曲全体を聴き深めることができる力を育成することを目的とする。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るために、聴き取ったことと感じ取ったことを伝え合ったり、特徴的な部分を取り出して聴いて確かめたりするなどして、児童が主体的・協働的に曲や演奏のよさを見出し、曲全体を味わって聴くことができるように学習を進めていきたい。

(2) 指導観

＜教材について＞

第1次では、「ハンガリー舞曲 第5番」を鑑賞する。この曲は曲想の移り変わりが分かりやすく、変化に富んでいる。曲に合わせて指揮をすることによって速度や強弱の変化を体感し、この曲ならではの表情豊かな面白さを探る学習に取り組む。また、異なる指揮者の演奏を聴き比べることによって、同じ曲でも速度や強弱の変化の度合いが異なると感じ方が変わる面白さを味わわせたい。音楽を形づくっている要素と曲想との関わりに気付かせていくとともに、曲想の変化を楽しむことによって音楽の聴き方を広げていきたい。

第2次では、「思い出のメロディー」を歌う。「ハンガリー舞曲 第5番」で学習したことを踏まえて、曲想の移り変わりを味わいながら歌い方を工夫していく学習に取り組む。曲想を生み出している強弱や旋律などの音楽を形づくっている要素及び歌詞の内容を生かした表現を工夫するとともに、曲想の変化を感じながら歌う楽しさを味わわせたい。

＜研究の視点との関わり＞

【視点1】〔共通事項〕を支えにした、9年間の学びの連続性を考えた授業づくり

①学び方の共有

○曲の魅力や愛され続けている理由を探るための比較聴取

本題材では、曲想の変化及びその面白さに気付かせるために「ハンガリー舞曲 第5番」を部分ごとに聴き比べる。速度や強弱の変化が大きい部分を鑑賞することによって、曲想の変化を感じ取りやすくなるだろう。曲に合わせて指揮をすることによって、速度や強弱の変化及びそれらが生み出すよさや面白さを体感し、曲の魅力を探ることができる。曲の場面ごとに比較聴取し曲のよさを理解することができたら、チョン・ミョンフンと小澤征爾の指揮による速度や強弱の変化が大きく異なる演奏と聴き比べさせる。指揮者によって演奏に大きな違いがあることを感じ取らせ、表現を多様に工夫して演奏することの奥深さを体験させたい。

○聴き取ったことと感じ取ったことを言葉で表現するための手立てになるサポートカードの活用

感じたことを言葉で表現することが困難な児童に対して、サポートカードを活用する。児童によっては語彙力が乏しかったり、感じることはできてもなかなか言葉で表現できなかったりするため、サポートカードで選択肢を提示することによって、自分が聴き取ったり感じ取ったりしたことに近い言葉を選択させる。この手立てにより、聴き取ったことや感じ取ったことを自身の言葉で表現する力を育み、曲の魅力や素晴らし

さを共有する楽しさをより味わわせたい。

【視点2】主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

②個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

○目的に応じた指導形態の工夫

第1時では、全員で指揮をしながら曲想の変化を聴き取ったり感じ取ったりする活動において、教師が一斉に指導する形態をとる。指揮をしながら探っていく中で活発に発言をさせ、児童の気付きを拾い、生かしてつなげていくことで共有する。これにより、曲の魅力になかなか気付くことができずにいる児童も、色々な児童からの気付きを手掛かりや助けにしながら協働的に学ぶことができると思う。

第2時では、ギガタブに入った音源を個人でじっくりと鑑賞する形態をとる。ギガタブを活用して個人で鑑賞し、自由に繰り返し聴くことによって、自分が選択した演奏を聴き深めることができるだろう。

【視点3】評価の在り方

○児童の思考を働かせるための思考ツールの活用

第1時では、教師が児童の発言を板書する際にマトリックス表（以下「思考ツール」）を活用する。児童が聴き取ったことと感じ取ったことを教師が分類・整理しながら板書することによって、児童の思考を働かせ、言葉を引き出すことができると思う。一斉指導で児童の思考を整理していくので、児童の発言を即時的に価値付けながら学習を進めることができる点もメリットである。聴き取ったことや感じ取ったことがあってもなかなか言葉で表現することができない児童に対して、一斉指導の中で思考ツールを活用することで、他の児童の力を借りながら自分の思考を整理したり考えを見出したりすることができるだろう。

第2時では、前時の学習の足跡が見えるワークシートを思考ツールとして活用する。第1時に出た児童の発言が足跡として記載されている思考ツールに書き加えることで、前時の振り返りになるとともに、比較することで児童の支援につながると考える。前時から本時までの学習の足跡が1枚のワークシートに残るため、児童が比較聴取によってどのようなことを聴き取り、感じ取ったかを評価することができるだろう。思考を働かせることで楽しさが深まるとともに、思考ツールによって見出された言葉が自然と指揮で表出される姿を目指していきたい。

3 題材の目標

- 曲想及びその変化と速度や強弱などの音楽を形づくっている要素との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な呼吸及び発音の仕方に気を付けて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌う。（知識及び技能）
- 旋律の速度、強弱及びその変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、音楽を味わって聴いたり、どのように歌うかについて思いや意図をもったりしている。（思考力、判断力、表現力等）
- 曲想の移り変わりを味わいながら、歌ったり聴いたりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組み、様々な音楽にみられる曲想の変化を味わう。（学びに向かう力、人間性等）

4 評価規準 ※評価略記号 知識・技能 知 技 知技

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知曲想及びその変化と速度や強弱などの音楽を形づくっている要素との関わりについて理解している。（鑑賞） ②知曲想と強弱などの音楽を形づくっている要素や歌詞の内容との関わりについて理解している。（歌唱） ③技思いや意図に合った表現をするために必要な呼吸及び発音の仕方に気を付けて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。（歌唱）	①旋律の速度、強弱及びその変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。（鑑賞） ②旋律の強弱とその変化を感じ取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。（歌唱）	①曲想の移り変わりを味わいながら、歌ったり聴いたりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（歌唱・鑑賞）

5 題材の指導計画及び評価計画（4時間扱い）（本時 2/4）

次	時配	◎ねらい　○学習内容　・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 （音符、休符、記号や用語）〕	○教師の働きかけ ・目指す児童の姿 【視点】	評価規準 （評価方法）		
				知技	思	態 ①
◎曲想の変化を味わいながら「ハンガリー舞曲　第5番」を鑑賞する。				①知 （観察・発言）		（観察・発言）
第一次	第1時	○曲に合わせて指揮をし、速度や強弱の変化を体感しながら曲想の変化を感じ取って聴く。 ・速度と強弱に合わせて指揮を振る。 ・聴き取ったことと感じ取ったことを全体で共有する。 ☆〔速度、強弱〕	○曲想の変化に興味をもたせるために指揮と演奏がずれた部分でなぜかを問いかける。 ・曲想の移り変わりを味わいながら聴く学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 ○児童の発言を思考ツールにまとめる。 ・曲想及びその変化と速度や強弱などの音楽を形づくっている要素との関わりについて理解している。 【視点1】　【視点2】　【視点3】	↓		↓

第二次	第2時 (本時)	○曲想の変化を感じ取りながら聴く。 ・チョン・ミョンフンと小澤征爾、どちらかの演奏を選び、ギガタブで聴く。 ・聴き取ったことと感じ取ったことを思考ツールに記入する。 ○前時の音源と比較して気付いたことを共有する。 ・音源を聴いて、気付いたことを発表する。 ・気付いたことを、音源を聴きながら確かめる。 ○ハンガリー舞曲が長年愛されている理由や魅力について考える。 ☆〔速度、強弱〕	○曲想表現が大きく異なる2人の指揮者による演奏を聴かせることで、比較できるようにする。 ○ギガタブを活用することで、個々でじっくりと聴かせる。 ○前時の音源と比べて速度が遅くなっていることや変化の幅が大きくなっていることなどを思考ツールに整理する。 ・旋律の速度、強弱及びその変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。 【視点1】 【視点2】 【視点3】	① (記述・発言)	
	◎曲想の移り変わりを味わいながら思いをこめて「思い出のメロディー」を歌う。		② [知] (記述・発言・聴取)		
	第3時	○歌詞の内容や曲想を捉える。 ・歌詞を読んでどのような曲なのか想像する。 ・曲を聴いて、聴き取ったことと感じ取ったことを思考ツールに記入する。 ・友だちと意見を共有する。 ○曲想の違いを感じ取って歌う。 ・ラララで主旋律を歌う。 ・歌詞をつけて歌う。 ☆〔強弱、旋律〕	○歌詞の内容に合う曲を想像させることで、曲に興味をもたせる。 ・曲想の移り変わりを味わいながら歌う学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 ○棒読みで歌詞を読ませたり、一定の音程で歌わせたりすることで、曲想の変化に気付かせる。 ・曲想と強弱などの音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 【視点1】 【視点2】 【視点3】		
	第4時	○曲想の変化を味わいながら歌う。 ・手を上下に動かしながら歌う。 ・ア、イ、ウそれぞれの曲想を感じ取りながら歌う。 ・前時に記入した思考ツールの内容を振り返る。 ・教科書の楽譜に気を付けたり工夫したりする点を文字や記号で記入する。 ☆〔強弱、旋律〕	○手を上下に動かすことで、音の高さや旋律の動きを捉えさせる。 ○何も意識しないで歌った後に、表現の変化を意識して歌うことで比べさせる。 ・旋律の強弱とその変化を感じ取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 【視点1】 【視点2】	② [技] (記述・発言・聴取)	② (記述・発言・聴取)

6 本時の指導（2/4）

（1）本時の目標

2つの演奏を聴き比べ、速度や強弱などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、演奏のよさを見いだし、曲全体を味わって聴く。

（2）本時の展開

学習内容・学習活動 ☆〔音楽を形づくっている要素 (音符、休符、記号や用語)〕	○教師の働きかけ・目指す児童の姿 ◇評価規準〈評価方法〉 【視点】
1 前時の学習内容を振り返る。 ・速度や強弱の変化に合わせて指揮をする。 2 本時の目標をつかむ。 ・アの部分で2つの演奏を聴き比べる。	○前時の学習を想起させ、イを指揮させる。 ○豊かな指揮をしている児童を見つけ、称賛する。 ○速度や強弱の違いが分かりやすいチョン・ミョンフンと小澤征爾の指揮によるCD音源を用意する 【視点1】①
いろいろなハンガリー舞曲を聴き比べて、曲の魅力をもっと探ろう。	
3 曲想の変化を感じ取りながら聴く。 ・どちらかの演奏を選び、ギガタブで聴く。 ・前時に鑑賞した音源との違いを探す。 ・個人で鑑賞し聴きたいところを繰り返し聴く。 ・「聴き取ったこと」と「感じ取ったこと」を前時の学習内容が書かれている思考ツールに追記する。 4 前時の音源と比較して気付いたことを共有する。 ・チョン・ミョンフン指揮の音源を聴いて気付いたことを発表する。 ・気付いたことを、音源を聴いたり指揮をしたりして確かめる。 ・小澤征爾の音源で同じ活動を行う。 5 ハンガリー舞曲が長年愛されている理由や魅力について考える。 ・考えをワークシートに記入する。 6 曲想の変化を味わって聴く。 ・DVD映像を観ながら、全通して聴く。 ☆〔強弱、速度〕	○机間指導をし、書き方に困っている児童にサポートカードを見せて助言したり、使い方を説明したりする。 ・旋律の速度、強弱及びその変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えている。 ・曲想の移り変わりを味わいながら聴く学習に興味・関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 【視点1】① 【視点2】② 【視点3】 ○音楽の多様さに気付かせるために、前時に鑑賞した音源と比べて速度が遅くなっていることや変化の幅が大きくなっていることなどを思考ツールに整理する。 ○曲想の変化を豊かに指揮している児童を称賛し、必要に応じてどのような指揮だったかを教師が再現したり、「どうしてそう振ったの？」と問いかけたりする。 【視点1】① 【視点2】② ○ハンガリー舞曲第5番の魅力や、音楽表現の多様性・奥深さを実感させるために、前時の学習でも触れた「ハンガリー舞曲第5番が150年間も世界中で愛されている理由」をもう一度投げかける。 ○必要に応じて前時で出た発言を話題に出し、想起させる。 ○曲を味わって聴くように声掛けをする。 ・曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。 ◇旋律の速度、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。 (思考・判断・表現) (発言・ワークシート)